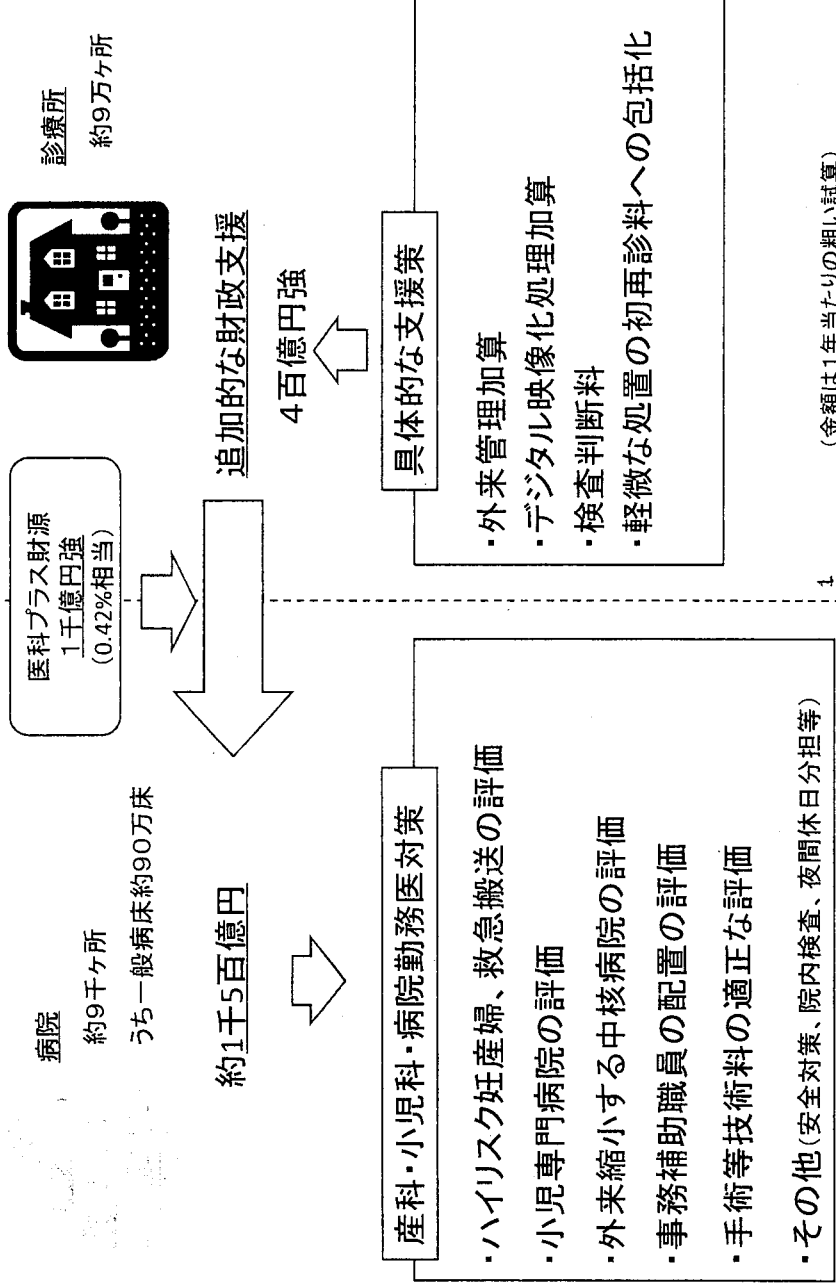


# 病院勤務医支援について(平成20年度診療報酬改定)



[照会先]  
厚生労働省保険局医療課 課長 原 徳壽 (内3271)  
(直通 3595-2577) 課長補佐 三浦 明 (内3274)

## 病院勤務医支援に関する公益委員の提案

08.01.30

### 【公益委員としての判断】

- ①国民の納得、②医療現場の納得、③診療報酬という技術的なツールを使いながら社会の要請に応える、という、3点から判断する。

### <財源確保の必要性>

- 病院勤務医対策という社会的要請に応えるためにはさらなる財源シフトが必要であり、2号側委員に対して、最大限の協力を求めることとする。なお、平成20年度診療報酬改定においては、国民の納得という観点から、勤務医対策に必要な財源の規模や手段について、中医協として初めて世に問うこととしたものである。

### <病診格差の是正>

- 病診格差の是正は、患者の納得を得るために非常に重要である。このため、再診料の病診格差是正を図るため、病院の再診料上げを行うことにより格差を縮小するとともに、後期高齢者における病診の外来管理加算の価格を統一する。
  - 軽微な処置を初・再診料包括的に評価することで、再診料は実質的に2点程度の引下げを行っていると考えられること、(後述のとおり)再診料に加算される「外来管理加算」の見直しも再診料の実質的引下げとなっていること、また、再診料の引下げは小児科なども含め全ての診療科に影響を及ぼすことを考慮して、再診料の引下げは行わないこととする。(後期高齢者の初診料引上げについては、再診料の引下げと合わせて考えられるものであり、行わないこととする。)
- ただし、初診料・再診料といった基本診療料の意義、診療報酬上の評価に当たっての考え方については、1号側・2号側委員の見解が大きく分かれたことや、後期高齢者医療制度の創設等の環境の変化があることなどを踏まえ、平成20年度改定が終わった後に、再診料など基本診療料については水準を含め、その在り方について検討を行い、その結果を今後の改定に反映させることとする。

### <財源確保の手段>

- さらなる財源シフトを行うために必要な財源については、外来管理加算に時間の目安を導入すること、デジタル処理加算について所用の経過措置を設けた上で廃止する、という手法により賄うこととする。
- 外来管理加算の時間要件については、委員より、時間という手法によることについて疑念が呈されていることから、次回の総会において、患者の視点に立って納得ができる基準となるような見直し案となるよう、事務局に対しては、検討を加え提示するよう要請する。

# 薬価制度改革に関する意見

2009年6月3日  
日本製薬団体連合会

## 製薬産業の使命と今日的課題

製薬産業は、優れた医薬品を開発・供給することにより、人々の福祉と医療の向上に貢献し、健康で質の高い生活の実現に寄与するという使命の下、以下の課題に取り組んでいる。

○アンメット・メディカル・ニーズに対応した革新的新薬の研究開発と上市

○患者さん・医療現場のニーズの高い未承認薬・未承認適応問題の解消

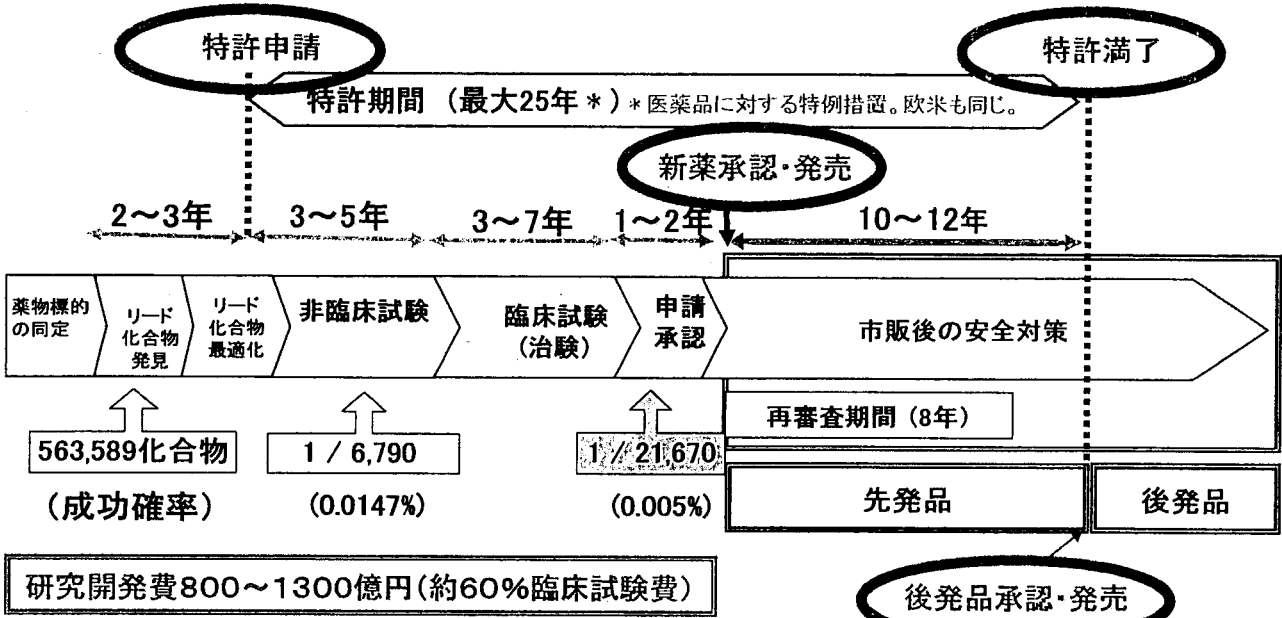
○採算性に乏しいが医療上不可欠な基礎的・伝統的医薬品の安定供給

○高品質で廉価な後発医薬品の安定供給と普及促進

○研究開発から市販後まで一貫した安全対策への取組みによる、  
医薬品の安全性確保

# 新薬の研究開発

- 研究開発期間が長い(10~20年)
- 研究開発費が高騰(800~1300億円/1品目)。特に臨床開発費
- 成功確率が低い(0.005%)
- 官民対話の実施、「革新的医薬品・医療機器創出のための5か年戦略」の策定・実施により、上記の問題改善に向けて取組み

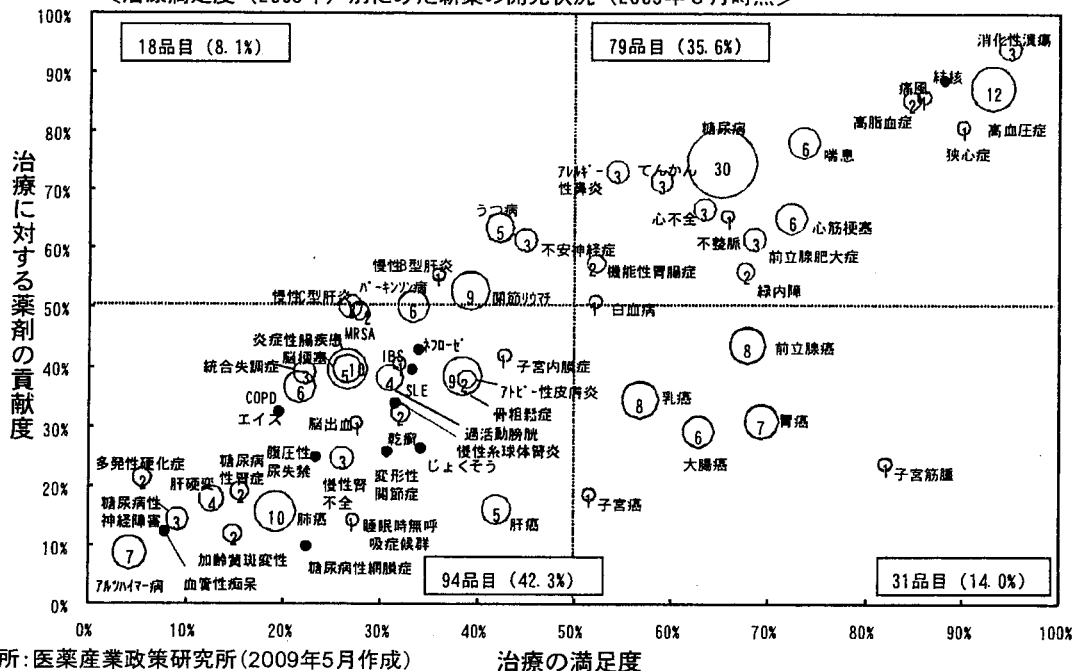


出典:てきすとぶっく 製薬産業2009(一部改編)

## 最近の新薬の開発状況

- 対象疾患:患者さん・医療現場のニーズが高く、治療満足度及び薬剤貢献度の低い疾患(アンメット・メディカル・ニーズ)に対する新薬開発が増加する一方、後発品使用促進により、治療満足度の高い疾患に対する新薬開発は減少
- 創薬技術:医療現場と連携し、ゲノム科学の応用による病態解明に基づく創薬の進展、低分子化合物に加えバイオ医薬品(抗体など)の開発進展

<治療満足度(2005年)別にみた新薬の開発状況(2009年5月時点)>



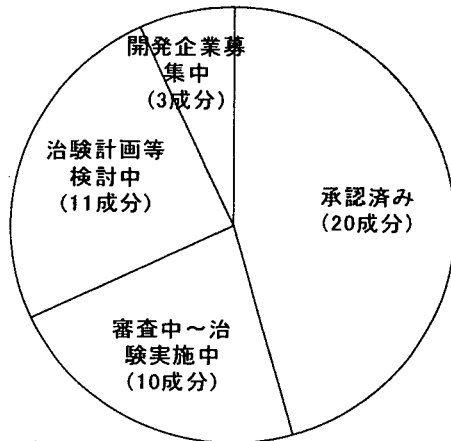


# 未承認薬・未承認適応及びドラッグ・ラグの問題

- 未承認薬: 海外で標準的に使用されている医薬品が、日本で上市あるいは開発されていない(別紙①参照)
- 未承認適応: 海外で承認されている適応が、日本で承認されていない(別紙②参照)
- ドラッグ・ラグ: 先進国の中で、新薬の上市時期が遅い

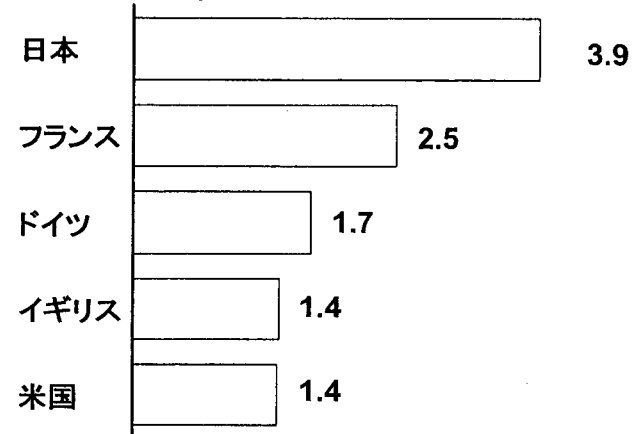
○問題点: 我が国で、国際的に標準的とされる医薬品による治療が受けられない、最新の新薬による治療が他国より遅くなる

未承認薬使用問題検討会議で治験が開始されるべきとされた44成分の検討状況



出所: 未承認薬使用問題検討会議(2009年3月10日)資料より作成

世界初上市から各国上市までの平均期間(2004年;年数)



出所: IMS Health, IMS Lifecycleより作成(転写・複製禁止)

6

## 未承認薬・未承認適応及びドラッグ・ラグ解消のための対策

### 1. 未承認薬・未承認適応への対策

- 製薬業界が、開発推進を支援する機構を立ち上げる  
「未承認薬等開発支援センター」の設立(詳細は後述)

### 2. ドラッグ・ラグへの対策

- 「革新的医薬品・医療機器創出のための5か年戦略」に基づき、官民で解消のための施策を推進中
- 臨床研究・治験環境の整備: 国際共同治験の推進、国内の臨床研究体制の整備、治験の拠点化・ネットワーク化等。「新たな治験活性化5か年計画」を推進中
- 承認審査の迅速化・質の向上: 審査人員の拡充・質の向上、承認審査のあり方・基準の明確化、国際共同治験への対応強化等、2011年度までに、開発期間、審査期間の2.5年短縮を目指す

### 3. 未承認薬・未承認適応及びドラッグ・ラグの両者への対策

- 革新的新薬に対し、その価値を評価し得る薬価制度への改革

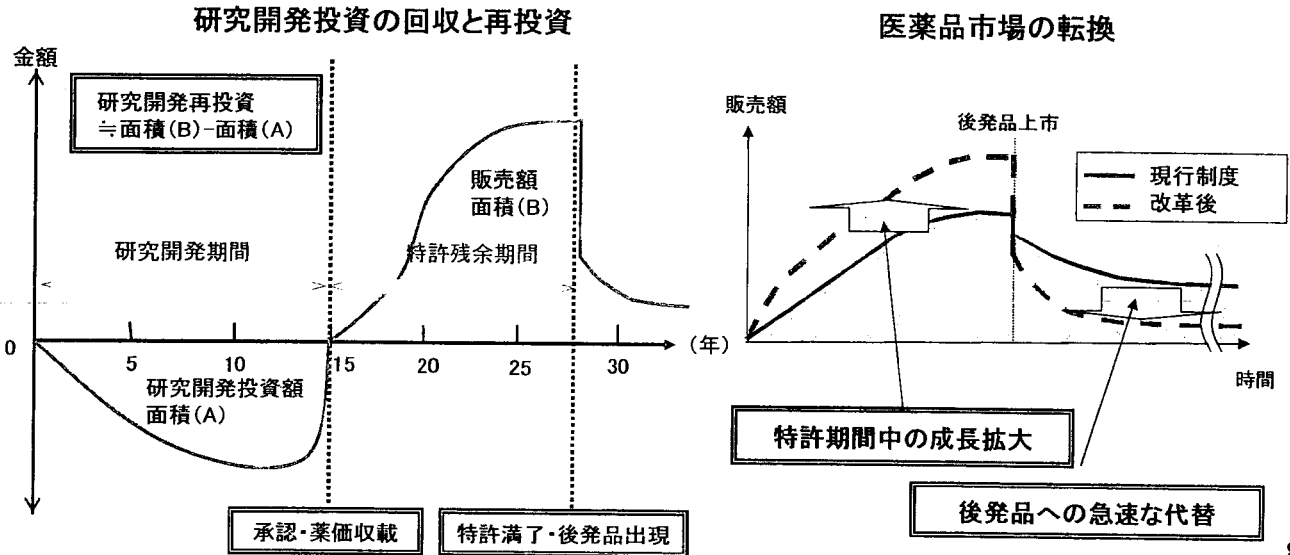
# 薬価制度改革の必要性

## <日本の現行制度>

- 特許期間中の薬価の循環的下落、後発品への緩徐な代替
- 研究開発投資回収が少しずつ、ゆっくりで、長期間かかる
- 革新的新薬の開発・上市が遅れ、未承認薬やドラッグ・ラグが存在

## <薬価制度改革の方向>

- 特許期間中に研究開発投資が回収でき、ハイリスク・イノベーションに挑戦できる制度
- 特許満了後は、後発品使用により薬剤費の効率化



8

## 「未承認薬等開発支援センター」の設立

### 【設立の趣旨】

わが国の患者・国民にできるだけ速やかに有効で安全な医薬品を提供することは研究開発型製薬企業の使命であり、従来から日本製薬工業協会会員各社は、革新的新薬の研究開発のみならず、医療上の必要性が高い医薬品をわが国の患者・国民に提供するための努力を続けてきた。しかしながら、欧米で既に承認・販売されているにもかかわらず、日本において承認・販売に至っていない成分・適応が存在する。

日本製薬工業協会では、研究開発型製薬企業団体の社会的使命、社会貢献の観点から、会員各社の参加の下、未承認薬・未承認適応問題の早期解消に向け、一般社団法人「未承認薬等開発支援センター」を設立する。

### 【事業内容】

厚労省に設置される有識者会議等にて治験実施が必要とされた未承認薬等\*の開発企業に対する以下の支援

- ・専門的、薬事的、技術的支援
- ・各種折衝業務等への支援
- ・資金援助

### 【組織】

会 員：製薬協会企業及び趣旨に賛同する個人・団体

役 員：若干名の理事及び監事(学識経験者及び製薬企業OB)

事務局：専門知識を有するものを含め、数名の常勤担当者を配置

### 【事業規模】

年間3億円程度とし、資金援助及び組織運営費用に充当する

### 【事務所】

東京都中央区

### 【設立時期】

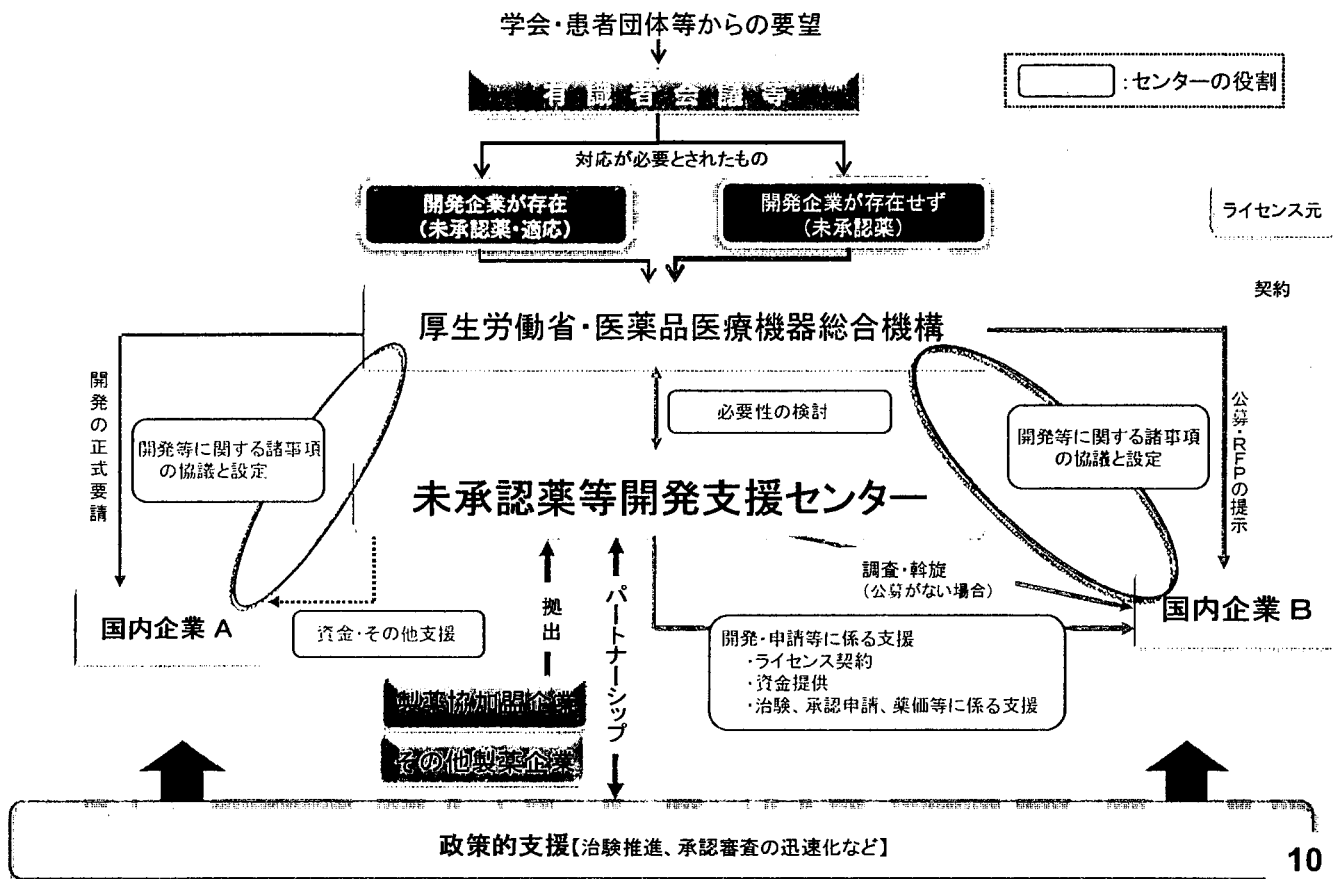
2009年5月

\*未承認薬等：以下の未承認薬及び未承認適応

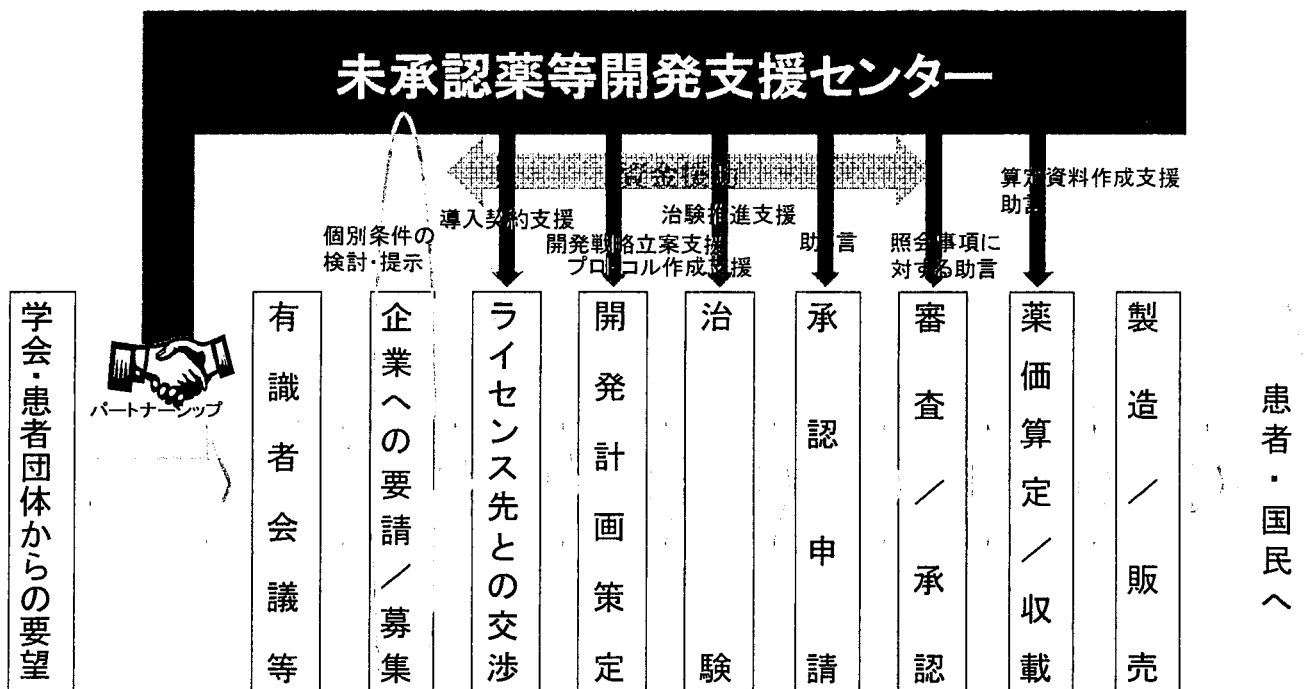
- ・未承認薬：外国(英米独仏の何れか)で承認されている成分であって、国内で開発着手されていないもの
- ・未承認適応：国内で承認されている成分の適応について、外国(英米独仏の何れか)で承認されている適応等であって、国内で開発着手されていない適応、もしくはそれに伴う製剤

9

# 未承認薬等開発支援センターによる対応スキームの概要(イメージ)

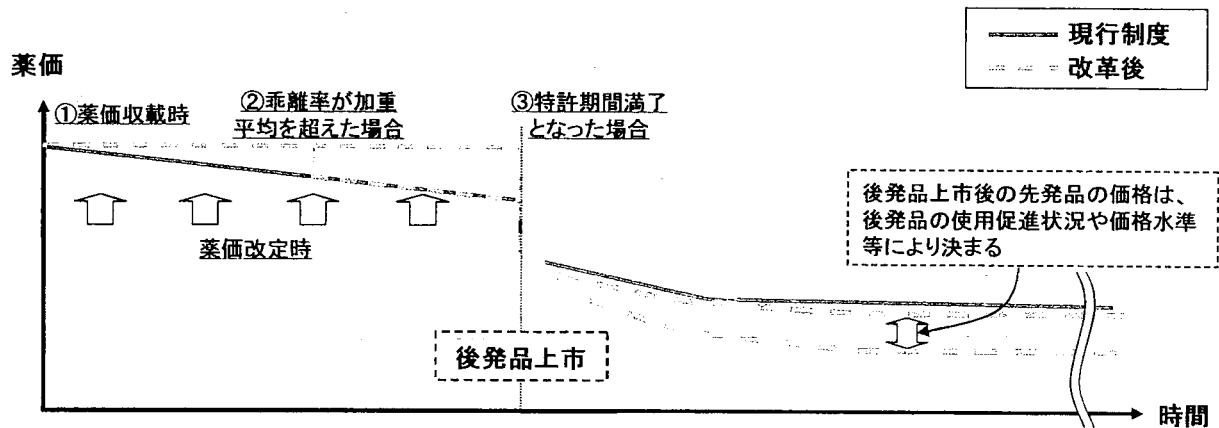


## 未承認薬等開発支援センターの機能



## 薬価維持特例の概要

- 薬価維持特例は、特許期間中もしくは再審査期間中の新薬の薬価を維持し、特許失効後は引下げを猶予された分を清算する一方で、市場を後発品に委ねるというコンセプトに立つものである。
- また、過大な薬価差を放置せず、かつ薬価差の拡大も招かないという観点から、収載全品目の加重平均乖離率を超えるものについては、薬価を維持せず調整幅2%による改定を行うものとしている。



12

## 薬価維持特例の対象範囲

### 〔薬価維持の対象範囲〕

薬価改定時において、以下のいずれかの要件を満たす既収載品であって、当該医薬品の乖離率が薬価基準収載全品目の加重平均乖離率を超えないもの

- 特許期間中の医薬品(後発品が薬価収載されていないもの)
- 再審査期間中の医薬品

※なお、保険医療上不可欠で採算性に乏しい医薬品も、薬価維持特例の対象とする



○乖離率を指標として市場の評価に基づく要件を課すことにより、結果として市場が大きく競争が激しい領域の品目は対象にはならず、オーファンに代表される市場の小さい領域や、競合品が少なくアンメット・メディカル・ニーズが高い領域の品目のみが薬価維持特例の対象になると予測される。

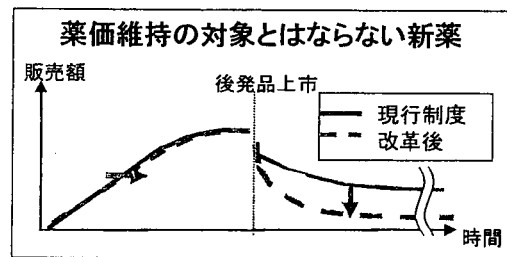
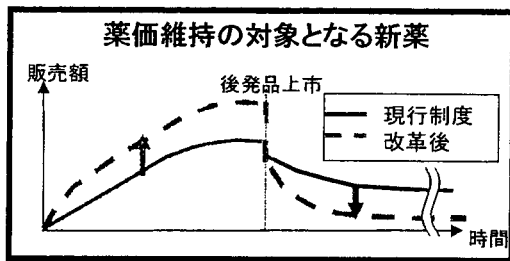
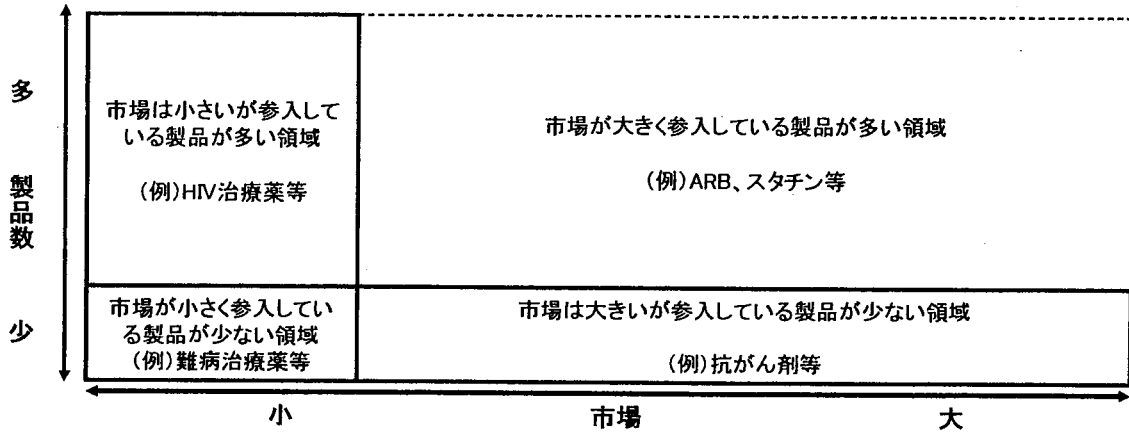
※毎回の改定ごとに、乖離率を踏まえて対象品目が見直される

13



# 予測される薬価維持特例の対象領域(イメージ)

※過去の薬価改定結果に基づき対象となる領域を推定(太枠部分)

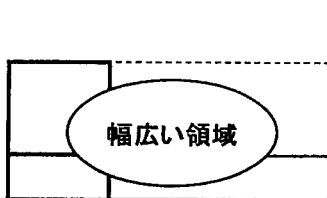


14

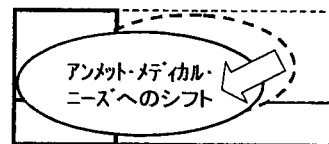
## 薬価維持特例の下でのアンメット・メディカル・ニーズに対応した研究開発の促進

- メガファーマは、競争が激しくとも市場の大きな領域に参入してきたが、最近ではアンメット・メディカル・ニーズの高い領域へ研究開発をシフトさせている。こうした中、薬価維持特例が導入されれば、このような研究開発の方向性を加速させることとなる。
- 一方、スペシャリティファーマは、自らの得意領域に特化することが可能であり、薬価維持特例が導入されれば、アンメット・メディカル・ニーズに対応した新薬の研究開発に集中化することとなる。

これまでの研究開発

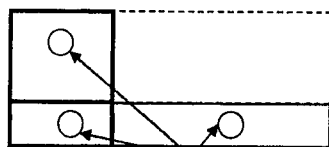


薬価維持特例導入後の研究開発の方向性



【メガファーマ】

アンメット・メディカル・ニーズに対応した領域における新薬の研究開発へのシフトを加速



【スペシャリティファーマ】

自らの得意領域においてアンメット・メディカル・ニーズに対応した新薬の研究開発に集中化

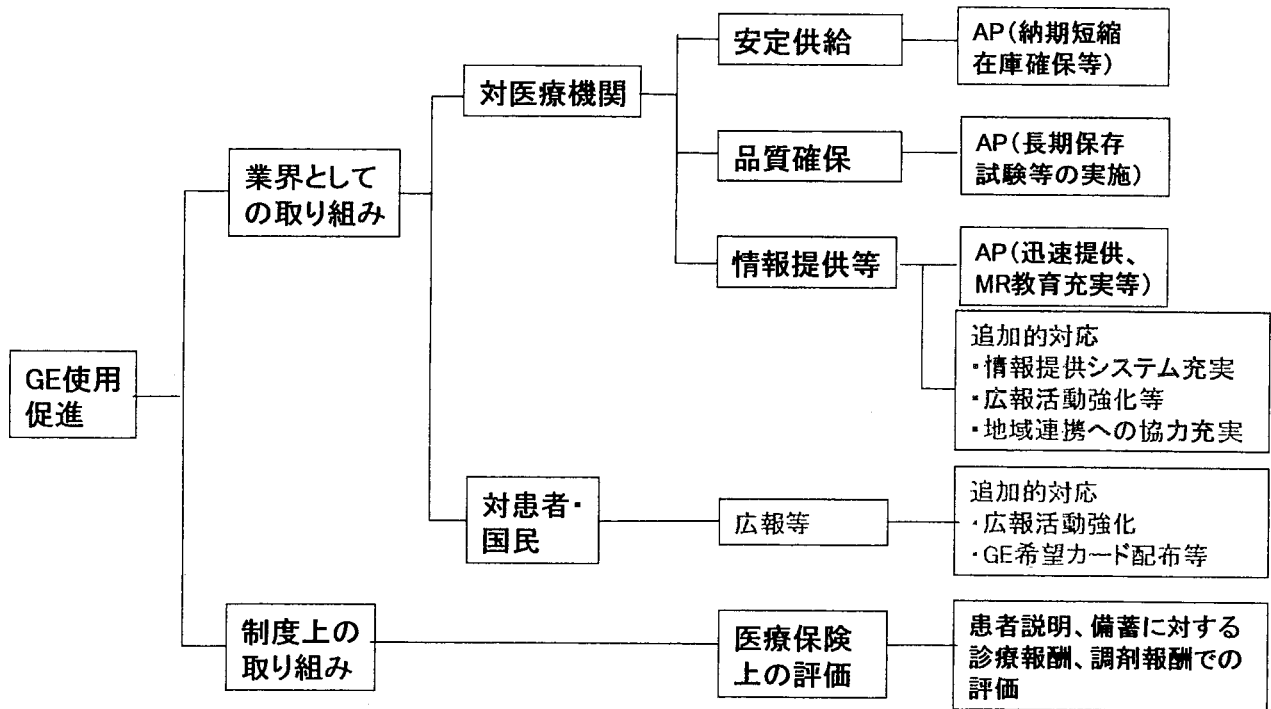
得意領域に集中

メガファーマ:世界的に通用する医薬品を数多く有するとともに、世界市場で一定の地位を獲得する総合的な新薬開発企業  
 スペシャリティファーマ:得意分野において国際的にも一定の評価を得る研究開発力を有する新薬開発企業

(「新医薬品産業ビジョン(2007年8月30日厚生労働省公表)」より抜粋)

15

## 後発医薬品の使用促進に向けた取り組み



AP:「後発医薬品の安心使用促進アクションプログラム」

16

## 後発医薬品の安心使用促進アクションプログラムに対する 日本ジェネリック製薬協会の取り組み

安定供給

卸業者への状況に応じた、翌日配送、即日配送

社内、流通それぞれ1ヶ月以上の在庫を確保

会員会社の注文問い合わせ一覧を全国の関連団体に配布

平成24年度には、平成18年度実績に比べ、各剤形2.5～5.0倍の供給能力の確保を計画

品質確保

ロット毎の品質試験結果、長期保存試験及び無包装状態での安定性試験結果の情報提供

ジェネリック医薬品の品質等の問題を指摘する文献の収集、評価の実施

品質再評価指定を受けた品目に対する実生産規模での溶出プロファイルの確認とその結果の情報提供

情報提供

生物学的同等性試験結果、安定性試験結果等の添付文書への掲載

「使用上の注意」改訂情報の医薬品機構HPへの掲載及び医療関係者への「お知らせ文書」を目標期間内に配布

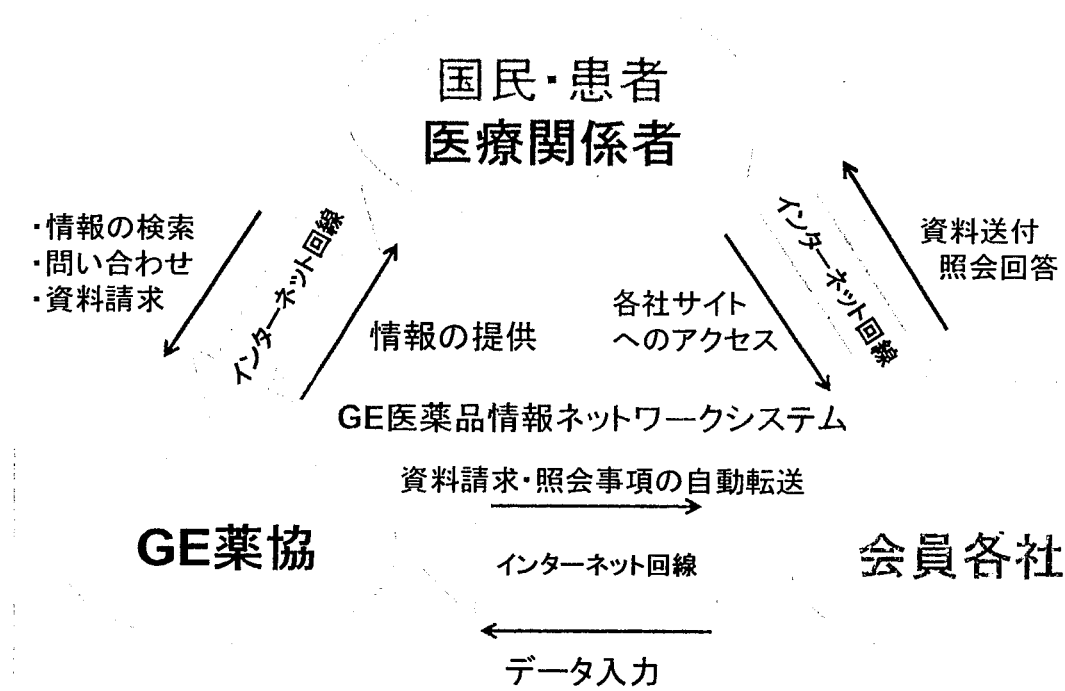
DI情報、添付文書、生物学的同等性試験・溶出試験データ、安定性試験データ、副作用データ、患者用指導せんの医療関係者からの資料請求に対し、迅速に提供

会員各社MRの管理・教育支援。連絡網並びに支援体制の整備

17

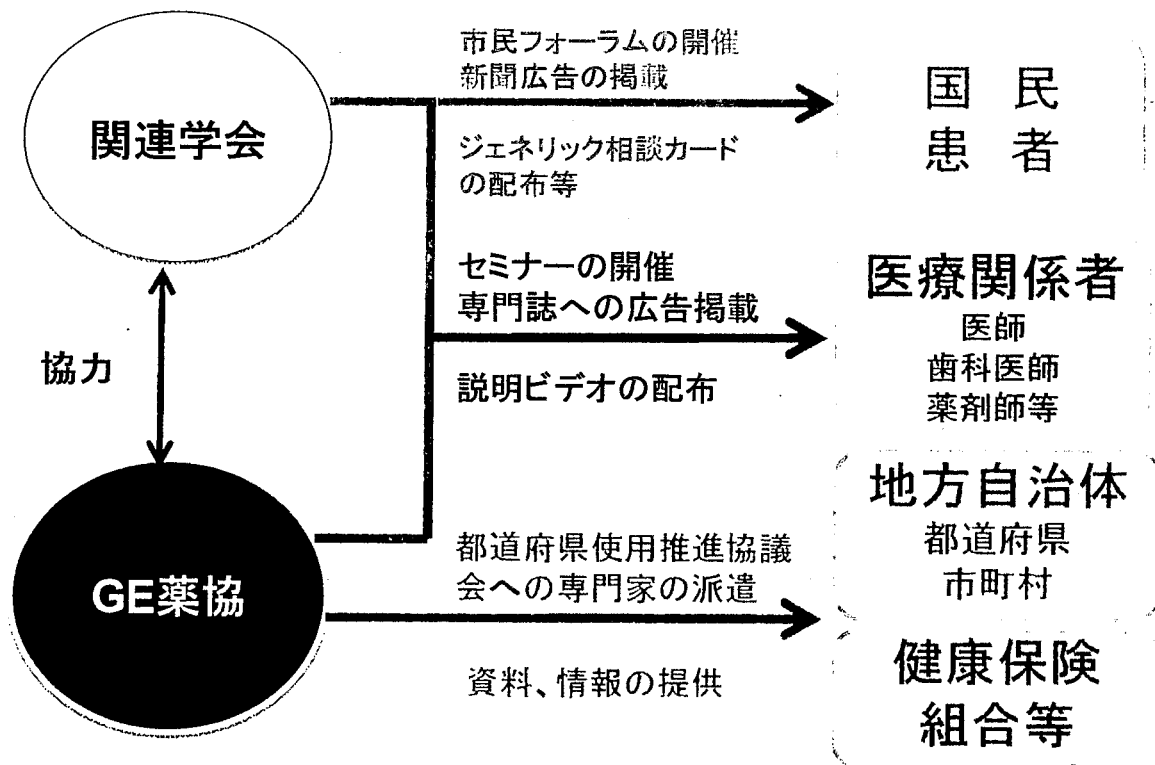
さらなる取り組み-1

後発医薬品情報提供ネットワークシステムの構築



さらなる取り組み-2

啓発事業の強化・自治体等への協力



## 総括-1

### 1.革新的新薬の評価と後発品の使用促進等

○2007年4月の「革新的医薬品・医療機器創出のための5か年戦略」は、同年6月の「経済財政改革の基本方針2007」で閣議決定。

○後発品使用促進については政府目標が設定され、併せて革新的新薬の評価の一環としての「特許期間中の新薬の薬価改定方式」については、継続検討することを2007年末に中医協で決定。

○後発品の使用促進に対し先発品企業も、特許の切れた成分に関する安全対策、特に海外のものも含む副作用情報のPMDAに対する報告と一般開示という面などで協力を行っている。

○なお、未承認薬・未承認適応問題への対応については、企業による取組みの進捗状況を、適宜中医協に報告することにより検証していくのが適切と考える。

20

## 総括-2

### 2.制度導入当初の後発品進捗と対比した財源手当て

○薬価維持特例の導入に際し、後発品使用の政府目標に届いていない場合は、政府目標との乖離にかかる不足財源の一定部分を、制度導入に伴う財政影響の緩和策として、既収載品の薬価を引き下げることに対応することは止むを得ないと考える。

○なお、その際は、そもそも後発品使用がなぜ目標どおりに進まなかったかを踏まえる必要があると認識する。

○その上で、後発品のない新薬や後発品のある先発品、後発品などの様々な組み合わせの中で、最も妥当な範囲を選定し、かつ薬価維持特例実施の財政影響と当該年度における通常の薬価改定の影響を勘案して、引下げ率を決定するのが適切と考える。

21

3.保険医療上不可欠な品目の取扱いと薬価維持特例導入の全体的意義等

○薬価維持特例の適用対象としては、特許・再審査期間中の新薬だけでなく、基礎的医薬品や伝統的医薬品の中で保険医療上不可欠とされ、採算性に乏しいために安定供給が危うい品目、具体的には不採算品再算定によって薬価が引き上げられた品目等も想定している。

○薬価維持特例の導入により、現在及び将来の医療ニーズに応える革新的新薬の研究開発と上市を促進するとともに、旧来の医療ニーズに応えた、採算性に乏しい基礎的・伝統的医薬品の安定供給を確保することが、本案の提案趣旨である。

○上記に加えて、薬価維持特例の実施は、個々の医薬品取引のあり方に関する流通当事者の意識を高めることにより、総価取引等の不適切な取引慣行の是正に資すると思われ、このことを通じて、個々の医薬品の価値をより適切に反映した市場価格形成にも寄与すると考える。

未承認薬使用問題検討会議で対応が必要とされた44成分(平成21年2月末現在)

別紙①

成分名	対象疾病	現在の状況	企業名	
オキサリプラチン	結腸・直腸癌	薬価収載	ヤクルト本社	
ベムレキセド	悪性胸膜中皮腫	薬価収載	日本イーライリリー	
サリドマイド	多発性骨髄腫	薬価収載	森本製薬	
ボルテゾミブ	多発性骨髄腫	薬価収載	ヤンセンファーマ	
ラロニダージェ	ムコ多発症Ⅰ型	薬価収載	ジェンザイム・ジャパン	
ジアゾキサイド	高インスリン血症による低血糖症	薬価収載	シェリング・プラウ	
ペバシズマブ	転移性結腸・直腸癌	薬価収載	中外製薬	
セツキシマブ	転移性結腸・直腸癌	薬価収載	メルク	
エルロチニブ	非小細胞肺癌	薬価収載	中外製薬	
テモゾロミド	悪性神経膠腫	薬価収載	シェリング・プラウ	
ガルスルファージェ	ムコ多発症Ⅵ型	薬価収載	アンジェスMG	
イブリツモマブ チウキセタン	B細胞性非ホジキンリンパ腫	薬価収載	バイエル薬品	
リボソーマルドキソルピジン	卵巣癌、AIDS関連カポジ肉腫	薬価収載	ヤンセンファーマ	
リファブチン	HIV患者のMAC感染症	薬価収載	ファイザー	
ネラパリン	T細胞性急性リンパ芽球性白血病、T細胞性リンパ芽球性リンパ腫	薬価収載	グラクソ・スミスクライン	
アルグルコシダーゼ アルファ	糖尿病Ⅱ型(ボンベ病)	薬価収載	ジェンザイム・ジャパン	
スニチニブ	消化管間質腫瘍(イマチニブ耐)、進行性腎細胞癌	薬価収載	ファイザー	
ソラフェニブ	進行性腎細胞癌	薬価収載	バイエル薬品	
デフェラシロクス	輸血による慢性鉄過剰	薬価収載	ノバルティスファーマ	承認済
イデユルスルファージェ	ムコ多発症Ⅱ型(ハンター症候群)	薬価収載	ジェンザイム・ジャパン	20成分
ダサチニブ	成人慢性骨髄性白血病、成人急性リンパ性白血病	承認審査中	プリストル・マイヤーズ	
エクシズマブ	発作性夜間血色素尿症	申請準備中	アレクシオンファーマ	
オクスカルバゼピン	てんかん部分発作	治験実施中	ノバルティスファーマ	
ボサコナゾール	侵襲性真菌感染症	治験実施中	シェリング・プラウ	
アパタセプト	中等度・高度の活動性関節リウマチ	治験実施中	プリストル・マイヤーズ	
レナリドミド	骨髄異形成症候群による貧血	治験実施中	セルジーン	
フォスフェニトイン	てんかん様重積症他	治験実施中	ノーベルファーマ	
デンタピン	骨髄異形成症候群	治験実施中	ヤンセンファーマ	審査中～
ボリノスタット	皮膚T細胞性リンパ腫	治験実施中	葛西製薬	治験中
オキシシドン注射剤	がん性疼痛	治験実施中	塩野義製薬	10成分
クロファラビン	小児急性リンパ性白血病	治験計画等検討中	ジェンザイム・ジャパン	
アレムツズマブ	B細胞性慢性リンパ性白血病	治験計画等検討中	バイエル薬品	
タルク	悪性胸水	治験計画等検討中	ノーベルファーマ	
ステリベントール	乳児重症ミオクローニーてんかん	治験計画等検討中	Biocodex SA(国内連絡先: 明治製薬)	
メサドン	がん性疼痛	治験計画等検討中	帝國製薬	
フェニル酪酸ナトリウム	尿素サイクル異常症	治験計画等検討中	ユー・サイクリッド・ファーマ社(米国)	
ルフィナマイド	レックス・ガスト一症候群	治験計画等検討中	イーザイ	
ヒトヘミン	ポルフィリン症	治験計画等検討中	シミック	
ストレプトゾシン	腫瘍細胞癌	(ライセンス交渉中)	(調整中)	
ベグアスバラガーゼ	L-アスバラギナーゼに過敏症の急性リンパ性白血病	(導入先と協議中)	(調整中)	検討中
テトラベナジン	ハンチントン無路病	(ライセンス交渉中)	(調整中)	11成分
システアミン	システノーシス	治験開始の検討要請中	(募集中)	募集中
ペタイン	ホモシチン尿症	治験開始の検討要請中	(募集中)	3成分
群ロリン酸塩製剤	原発性低リン血症性クル病	治験開始の検討要請中	(募集中)	

●印は同会議で検討が開始された薬物療法

医薬品	効能・用法・剤形等
(日本未熟児新生児学会)	
クエン酸カフェイン	未熟児呼吸機作
●アソクロピド	新生児基幹感染症ウイルス感染症
ガンマグロブリン	血毒症不適合器血性重傷
ドネキサラム	未熟児呼吸機作
ガンソクロピド	新生児サイトメガルウイルス感染症
(日本小児循環器学会)	
●肝臓アレイド	肝臓性不整脈
マレイン酸エナラプリル	高血圧症、慢性心不全
塩酸ペラミド	肝臓性不整脈
ベサルラムロジピン	小児高血圧症
カルベジロール	小児慢性心不全
塩酸メキシチレン	小児神経性不整脈
(日本小児神経学会)	
●A型ボツリヌス毒素	腱痙攣(けいれん)の改善、片側顔面(けいれん)の改善及び痙攣性麻痺の改善並びに痙攣性麻痺における下肢麻痺の改善
ミダゾラム注	てんかん様重積状態(けいれん重積症)
ステロイドホルモン	筋ジストロフィー
塩酸ノドカイン	てんかん様重積状態、けいれん発作頻発状態の改善
ジアセバム	てんかん様重積状態(けいれん重積症)
フェンバルピタールナトリウム	てんかん様重積状態
(日本小児神経学会&日本小児心身医学会&日本小児精神神経学会)	
●メチルフェニデート	注意欠陥及び多動性障害
リスベドロン	統合失調症、双極性行動障害
アルプラゾラム	不安障害、不安感が持続する予期不安の強い症例
クエン酸ナド スピロン	心身症における身体症状ならびに抑うつ、不安、焦燥、睡眠障害、神経症における抑うつ、恐怖
エチゾラム	神経症における不安・緊張・抑うつ・神経衰弱症状・睡眠障害うつ病における不安・緊張・睡眠障害・心身症における身体症状ならびに不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
(日本産科学会、日本小児がん学会)	
フィルグラスチム	自己注射
レググラスチム	
ナルトグラスチム	
フルコナゾール	淋菌液(注射剤)
イホスファミド	菌性リンパ腫
(日本小児アレルギー学会)	
塩酸イソプロテノール	気管支喘息重症発作に対する持続吸入療法
塩酸プロカテロール	使用上の注意から(乳児に対する安全性は確立していない)を削除
برانルカスト	添付文書から(1歳未満の小児での使用経験がなく、低出生体重児、新生児、乳児に対する安全性は確立していない)を削除
トシル酸スフラタド	アトピー性皮膚炎、食物アレルギー

医薬品	効能・用法・剤形等
(日本先天代謝異常学会)	
塩化シボカルニチン	原発性カルニチン欠乏症、その他の二次性カルニチン欠乏症
塩酸サロプロテリン	BH4反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症における血中フェニルアラニン値の低下
ピオチン	赤ロカルボキラーゼ合成障害欠損症、ピオチンターゼ欠損症、ミトコンドリア脳筋症を含むミトコンドリア代謝障害
β-カロチン	プロピオン酸血症、メチルマロン酸血症のβ-カロチンの改善
(日本小児腎臓病学会)	
シクロスタッド	細菌両型型ネフローゼ症候群
ソルゾール	ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群
セルゼフト	腎臓病
ミシリピン	細菌両型型ネフローゼ症候群
β-カロチン	高カルシウム血症
(日本小児内分科学会)	
β-オキシプロピオン	①型糖尿病
リネプロロリン	②型糖尿病合併症
パシドクネート	骨形成不全症
プラバスタチン	高脂血症、家族性高コレステロール血症
アトルバスタチン	高脂血症
(日本小児感染症学会)	
●シクロロキサシン	β-ラクタム耐性菌の重症感染症
塩酸オセルタミビル	乳児への用法・用量
塩酸バラシクロビル	重症麻疹
トシル酸	小児の用法用量
トスロキサシン	小児の用法用量
(日本小児薬理消化器肝臓学会)	
ウルソデオキシコール酸	胆汁うっ滞に伴う肝疾患における肝機能の改善
ランソプラゾール	胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ菌除根・GER
ファモチジン	GER、胃炎、逆流性食道炎
ベニタケ	潰瘍性大腸炎・クローン病
PEG-インターフェロン	C型肝炎
リパセリン	C型肝炎、慢性肝疾患に肝機能改善
ラミブジン	B型肝炎
インフリキシマブ	クローン病
アザチオプリン	潰瘍性大腸炎・自己免疫性肝炎・クローン病
酢酸オクトレオチド	消化管ホルモン産生腫瘍
ミコフェノール酸モフェチル	肝移植
ボカルボフィルカルシウム	過敏性腸症候群
メシカルモスタド	慢性肝炎における炎症抑制、胆汁逆流性食道炎
プレドニン	自己免疫性肝炎
モザブド	慢性肝炎、慢性腎炎
グルチルリチン酸	慢性肝疾患における肝機能改善
レバシロールナトリウム	胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ菌除根

医薬品	効能・用法・剤形等
(日本小児消化学会)	
塩酸トネベツル	日常生活能力障害障害または急激進行障害を来したクローン症候群
成長ホルモン	成人プラドマール・ウイリ-症候群患者での体区画改善
(日本小児科学会)	
オセルタミビル	ドライアイ
●アトアミン	小児科領域の麻酔
(日本小児産科学会)	
五苓散	小児遺尿
麻香甘石湯	小児遺尿
葉胡清肝湯	小児遺尿
(日本小児産科学会)	
塩酸アミオダロン	静注剤
エビネフリン	0.1mg/ml静注
0.9%塩化ナトリウム液	10ml静注
異化イブサロピウム	吸入薬
フェンバルピタールナトリウム	静注
(日本小児リウマチ学会)	
●β-トリスチロート	慢性特発性関節炎
●シクロホスファミド	小児リウマチ性疾患
メチルpredニソタン	小児リウマチ性疾患治療
ミシリピン	小児ループス腎炎、腎臓性関節炎
アザチオプリン	小児ループス腎炎、腎臓性関節炎
(日本小児産科学会)	
塩酸ノドカイン/エビネフリン	小児での安全性の記載削除
塩酸プロドカイン/塩化エビネフリン	小児での安全性の記載削除
塩酸プロドカイン/フェリレチン	小児での安全性の記載削除
塩酸メバカイン	小児での安全性の記載削除
(日本小児産科学会)	
フェンタニル	2歳以下の疼痛、麻酔
ミダゾラム	麻酔前投薬、術中術後の鎮静
アミオダロン	心臓薬
バソプレシン	低血圧、心停止後
アプロピニン	人口心臓肺の出血量減少
ノドカイン	静注剤の副作用、神経障害性疼痛、集中治療時のけいれん
オクタノール	嘔吐
エフェドリン	腎臓・心臓下群神経以外の低血圧
フェンタニル	静注剤の副作用
プロピオール	鎮痛、麻酔
ロピバカイン	術後以外の麻酔外鎮痛
デクスメタミジン	集中治療時の鎮痛、手術中使用
オキシドロン	静注剤の副作用
モルヒネ	静注剤の副作用
タリジン	神経障害性疼痛

小児薬物療法検討会議資料より